

# HD導入時期に脳梗塞を発症した患者との関わり ～外来HDを目標として～

柿崎朱季葉 北島 久美 平尾佐江子 佐藤真由美 大野呂和栄  
小井 正美 秦 佳子 松田 浩明 岡 良成 高津 成子  
宮崎 雅史

腎不全センター 幸町記念病院

キーワード：導入期、自己管理、リハビリ

## I はじめに

脳梗塞発症により右不全麻痺となりADLの低下がみられ、セルフケア不足となった患者が外来HD生活を目標に、生活能力の向上を目指して関わった結果を報告します。

## II 患者紹介

66歳男性、独居であり賃貸業を営んでいます。II型糖尿病でインスリン療法中、直腸Caにてストーマ造設しています。当院保存期外来にてフォロー中で、平成23年11月30日左前腕内シャントを造設しましたが、HD導入を拒否しており自宅療養していました。平成23年12月20日脳梗塞による不全麻痺出現し、自宅生活は困難ということで入院となりました。

## III 経過

脳梗塞発症から2か月を「発症期」としました。今までできていたことができないという現状を受け入れられず、尿毒症の悪化による倦怠感も強く、一日中臥床して過ごしていました。声掛けにもあまり返事をせず、なかなかコミュニケーションが取れませんでした。

看護目標を「現状を受け入れることができる」とし、患者の体調や気分を考慮しながら声掛けをし発言があった時には傾聴しました。意欲がないときには無理にリハビリを勧めず、患者のペースに合わせて行うようにしました。

発症3か月から6か月を「回復期」とし、看護目標は「日常生活が自立できるようになる」としました。

尿毒症症状は進み全身浮腫も出現したため、本人の同意もあり平成24年2月4日HD導入をしました。導

入直後は不均衡症候群にて体調がすぐれず不安も強くありました。HDに慣れるにつれスタッフとのコミュニケーションも増え、離床して過ごすようになりました。また、倦怠感が改善し少しずつリハビリ意欲が出てきました。

食欲も増し自力での摂取を試みましたが、利き手ではないことと筋力低下からすぐに疲れてしまうため、様子を見ながら介助し、介護食器を使用して対応しました。排泄は羞恥心がかなり強く、排泄後は自分で尿パットの交換行っていました。時間を決めトイレ誘導の声掛けをしました。この頃、ベッド欄にL字柵を装着し起立練習からリハビリを始め、車椅子移乗もスムーズになりました。ストーマ管理は、自分でパウチ交換を行うも失敗することもありました。その都度、手技の確認をしました。パウチホルルの作成はハサミの使用を左手ですすめました。内服薬はシート貼りにし本人管理にしましたが、内服の準備はできない為、ナースがシートから外し内服の声掛けを行いました。インスリンとBSチェックは単位を覚えているが、手技があいまいでした。清潔操作での施注が困難で指先の力も入りにくく、チップや針の機械への装着や血液感知動作などの細かい動作が難しく、ゆっくり行えばいいことを声掛けしながら、ナース見守りで行いました。手技の繰り返しの指導、清潔操作の確認を行いました。

退院直前を「安定期」とし、看護目標は「退院後の生活に向けて自主的に行動できるようになる」としました。

患者は、リハビリ意欲も上昇し一人での平行棒歩行や車椅子歩行などを行う姿がよく見られていた時期でした。食事は、左手で自己摂取ができ最後まで摂取できている。排泄は、自分で車椅子移乗してトイレに行き排泄した後はウォッシュレットを使用し清潔を保つ

表1 自己管理チェック表

朝	昼	夕	就前
空腹時血糖 チェック	空腹時血糖 チェック	空腹時血糖 チェック	薬服用
インスリン注射	インスリン注射	インスリン注射	
薬服用	薬服用	薬服用	
ニトロダーム 貼る		ニトロダーム 貼る	
ラバック内 チェック		ラバック内 チェック	ラバック内 チェック
シャント音 確認			シャント音 確認

ていました。保清もシャワー浴を自立で行えるようになりました。ストーマ管理は、清潔にパウチ交換ができ片づけもできるようになりました。内服薬はシート貼りでの管理で内服準備も行えています。この頃より、外来透析に向け自己管理にて行っていかないといけないことを、患者自身が把握し管理できるように、自己管理チェック表を導入しました。項目欄にチェックを行うように声掛けをしました。(表1)

#### Ⅳ 結果

現状を受け入れることによりリハビリが進み、徐々にADLが改善し、セルフケア部分が増えました。セルフケアの自立に伴って意欲的になり、さらにリハビリが進みました。声掛けや手技の確認を繰り返し行うことで自己管理ができるようになりました。自己管理チェック表の導入により一日の流れが把握できたことで自主的に行動できるようになりました。

#### Ⅴ 考察

セルフケアが自立し本来の生活に近づいた事で、自信が持てたと考えられました。自己管理チェック表を使用することで一日の流れが把握でき生活能力の向上に繋がったと考えられました。

#### Ⅵ 退院後の現状

自己管理チェック表の記載を忘れることがあります。日常生活でしなければならない事は把握し施行できています。自宅での様子を把握するため連絡ノートを作成し、ヘルパーへの記載を依頼しました。透析前後でBSチェックをしています。透析来院時の会話の中で、生活に意欲的な様子が伺えます。

#### Ⅶ まとめ

脳梗塞発症により、セルフケア不足となった患者に患者自身が目標を見いだせるように、ADLに応じた指導を行うことが大切だと再確認できました。